

調査の目的と方法

1. 調査の目的

産科病棟における保健医療サービスは、他の病棟と違ってその対象の多くが病人ではなく、生理的に自然な現象である妊娠・分娩を無事に終えるために入院してくる健康な人々である。しかし、その反面、疾患のある母子や緊急時に対応する体制も不可欠であるという特徴がある。

このような産科病棟で保健・医療サービスを提供するのに、助産婦、医師、看護婦、准看護婦、看護助手など多くの職種の間が係っている。そして、看護職の中の職種をみた場合に、他の病棟と違って、「助産婦」が大きな役割を果たしている。しかし、この助産婦の業務のあり方は、助産婦不足問題と絡って様々な問題をはらんでいる。

日本看護協会では、母子への看護サービスの向上のために、この問題を改善していくことを目指している。そこで、今回、産科病棟の実態と、助産婦のおかれている状況、および産科病棟婦長の意識などの現状を把握することを目的として、調査を実施した。

2. 調査の時期

昭和52年10月現在を調査時点とした。

ただし、年間分娩件数と、年間分娩件数のうち正常分娩の占める割合については、昭和51年度のことをたずねた。

3. 調査対象ならびに調査方法

全国の産（婦人）科を有する病院2,697施設（1976年版厚生省医務局総務課編「病院要覧」調べ・S 48年12月末現在）を母集団とし、標本調

査を行なった。

2697施設をまず次の層に区分した。

- ① 産（婦人）科のみを標榜する病院（以下産院と略す）
 - ② 産（婦人）科を有する大学病院
 - ③ 産（婦人）科を有する①②以外の病院
- 標本決定は、施設の総病床数の平均と標準偏差

をもとにした層別抽出法で行なった。

必要標本数 n を以下の式で求めた。

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\epsilon}{1.96}\right)^2 \frac{N-1}{\delta^2}}$$

母集団の数 $N = 2,697$

分散 $\delta^2 = 38,627$

絶対精度 $\epsilon = 0.07 \times 189.2$

（相対精度を0.07とする）

平均病床数 189.2床

この値を上式に代入して

$$n \approx 644$$

比例割当法により、各層の必要標本数は

① 84 ② 20 ③ 541 となり、かつて実施した

同様な調査の回収率を考慮し、抽出標本数は、以下の様に計算された。

① 583 ② 112 ③ 1,141

①、②は母集団の数を超えているので、全数調査とし、③についてのみ、各県別の比例割当で抽出した。

最終的に①の施設（355）、②の施設（78）、③の施設（1,141）に、本協会より直接調査票を郵送し、記入の上、返送してもらった。

調査票記入者は、産科病棟婦長とし、次の様に

指定した。

- ①〔病棟において産科の看護単位が1つである病院の場合〕

その産科の看護単位の管理者である、いわゆる産科産棟婦長が記入する。

- ②〔病棟において産科の看護単位が2つ以上ある病院の場合〕

その各看護単位全体を管理している立場の人が記入する。

- ③〔病棟において産科の看護単位が2つ以上ある病院で②の立場の人がいない病院の場合〕

その各看護単位全体のうち1つの看護単位の管理責任者が、他の看護単位の管理責任者からその様子をききながら記入する。

4. 回収・点検

昭和52年12月末回収票数 322 票のうち、有効回収票数は 313 票であった。必要標本数に対する回収率は 48.6 %であった。

回収票 313 票のときの実績相対精度を改めて計算すると

母集団 2,697

標本数 313

今回調査の病院の平均病床数 333.5

〃 の病床数の分散 40,977.0

実績相対精度

$$2\sqrt{\frac{2,697-313}{2,697-1} \times \frac{40,977.0}{313} \times \frac{1}{(333.5)^2}} \approx 0.063$$

目標相対精度 0.07 を維持することができた。

各層別の回収率は次のとおり。

| | 母集団 | 発送数 | 有効回収数 | 回収率 |
|---|-------|-------|-------|--------|
| 計 | 2,697 | 1,574 | 313 | 19.9 % |
| ① | 355 | 355 | 18 | 5.1 |
| ② | 78 | 78 | 40 | 51.3 |
| ③ | 2,264 | 1,141 | 255 | 22.3 |

5. 集計

S P S S を使用したコンピュータ集計による。

各層別の必要標本数に対する回収率が① 21.4 %、② 200.0 %、③ 47.1 %であり、特に①の回収率が低いことから、集計は①を省いて②③の施設のみ集計した。

なお、②③の集計にあたっては、層別に調査対象の選び方が異なっているので、それを集計の段階で統計的に調整した。すなわち、層別の回答者数が②③の母集団に比例するよう②を2倍、③を9倍して重みづけをした。

また、集計にあたっては、産科病棟が2つ以上の看護単位に分かれている場合は、分娩室を有する看護単位を集計の対象とした。